

序 — 刊行によせて —

高雄山神護寺は、京都市の北西に位置し、紅葉の名所として知られるが、その歴史は古い。

天応元年（七八二）和氣清麻呂公が桓武天皇に神願寺の建立を願ひ出て許され、河内に伽藍を建てた。しかしこの地は新寺に適さず、清麻呂の子の真綱らが和氣氏の氏寺であった高雄山寺を河内の神願寺と合併し、天長元年（八二四）、「神護国祚真言寺」と改めたのが神護寺の始まりである。

これより先の延暦二十一年（八〇二）高雄山寺で最澄が法華会を修し、弘仁三年（八一二）には唐から帰国した空海が金剛界灌頂、胎藏灌頂を最澄らに授けている。神護寺の所蔵するもつとも古い文書が、灌頂の記録を書き記した空海直筆の「灌頂曆名」である。空海は一四年間この寺に住持し、真言宗立教の基礎を築かれた。

平安末期の久安年間（一一四五―一一五二）の二度の大火で諸堂を焼失、荒廃することになるが、文覚上人が源頼朝や後白河法皇の厚い庇護を受け再興した。荒廃した時期に持ち出されていた寺宝も、後の文覚上人等の努力により神護寺にいくつか返還されている。文覚上人の復興から南北朝にかけて、神護寺は隆盛期を迎え、その頃の文書が多数現存するのも神護寺文書の特徴であり、貴重な資料となっている。

応仁の乱では再び兵火を受け大師堂を残して消失してしまった。元和九年（一六三三）、龍巖上人のときに所司代板倉勝重が奉行となって、楼門、金堂（現在の毘沙門堂）、五大堂、鐘楼を再建。明治維新の廃仏毀

釈により再び荒廃するも、昭和一〇年（一九三五）には山口玄洞翁の寄進により、金堂、多宝塔などが新築され、今日の美観を整えた。

数度の荒廃の中にあつて神護寺の文書類も多数消滅および流出したとみられるが、明治期以降、数度にわたつてその調査が行われている。中でも特筆すべきは、昭和十五～十六年（一九四〇～一）に京都大学国史研究室刊の『史林』に田井啓吾氏の「神護寺文書に就いて」が掲載され神護寺所蔵の二七四通の文書が活字化されたことで、後の古代・中世史研究を裨益するところ大であつた。しかしながら、それ以降には主だつた出版はなく、今日に至つており、学会からも神護寺史料の集成、刊行が囑望されていた。

この度、神護寺文書研究会（坂本亮太氏・末柄豊氏・村井祐樹氏）により刊行されることとなつた『高雄山神護寺文書集成』には、「灌頂曆名」を筆頭に、他所に収蔵されていた文書も含めて四九六通、また、記録編として『神護寺略記』等も収載され、待ちに待つた一冊となつた。長期にわたる調査研究の成果がまさにここに結実した感がある。

今回の出版を契機に、未だ世に出ていない神護寺の資料が、今後発見されるのではないかという可能性も大きく膨らんできたように思えて、喜ばしい限りである。

文書の調査研究に携わつてこられた先生方と、この本を出版するにあつてご協力戴いたすべての方々に感謝を申し上げたい。

平成二十九年正月吉日

高雄山神護寺貫主 谷内弘照

目次

序——刊行によせて——

谷内弘照

例言

灌頂曆名……………1

文書篇……………9

記録篇……………429

解題……………557

花押集

寺外流出文書・記録所蔵者別索引

神護寺所蔵文書・記録目録

細目次

灌頂曆名

文書篇

一	紀伊国神野真国杣山材木日記	○水野忠幹 旧藏文書	11
二	紀伊国神野真国杣山材木日記	○早稲田大学附属 図書館所藏文書	11
三	紀伊国賀天婆木津曳出材木目録	○水野忠幹 旧藏文書	13
四	鳥羽上皇院宣	○卷九	13
五	熊野詣上道下向雑事注文	○卷九	14
六	紀伊国神野庄住人解	○卷九	15
七	鳥羽上皇院宣	○卷九	16
八	熊野詣上道雑事注文	○卷九	16
九	熊野詣還向雑事注文	○卷九	17
一〇	聖隆書狀(裏紙欠)	○思文閣古書資 料目録二〇二	18
一一	鳥羽法皇院宣	○卷九	18

一二	高階泰經書狀(裏紙欠)	○卷九	19
一三	藤原泰通寄進狀	○卷九	19
一四	紀伊国神野真国庄関係文書包紙	○卷九	19
一五	後白河法皇院宣	○卷九	20
一六	源賴朝寄進狀	○卷一	20
一七	源賴朝書狀	○卷一	21
一八	源賴朝書狀	○卷一	21
一九	源賴朝書狀	○卷一	21
二〇	大江広元書狀	○国立歴史民俗博物館所蔵文書	22
二一	後白河院庁下文	○卷九	22
二二	平親宗書狀	○卷九	24
二三	源賴朝下文	○卷一	24
二四	平親宗書狀	○卷九	25
二五	後白河法皇院宣	○卷九	25
二六	梶原景時書狀	○卷九	26
二七	文覚四十五箇条起請文		26
二八	紀伊国柿田庄坪付注進狀(前欠)	○影写本十一	38
二九	隆憲奉書(裏紙欠)	○卷九	59
三〇	後鳥羽天皇宣旨	○早稲田大学附属図書館所蔵文書	59

三一 紀伊国神野真国庄問注文書等目錄 ○和歌山県立博物館所藏文書

三二 後白河法皇院宣 ○卷十

三三 後白河法皇院宣 ○卷十

三四 後白河法皇神護寺御幸記(後欠) ○卷二

三五 播磨国司庁宣 ○思文閣古書資料目錄
二四九・二五〇合併

三六 太政官牒 ○卷二十

三七 神護寺解 ○卷二十

三八 太政官牒 ○卷二十

三九 太政官牒 ○卷二十

四〇 太政官牒 ○卷二十

四一 文覚書状案(裏紙欠) ○卷二

四二 文覚書状案 ○卷二

四三 橘定康書状 ○卷二

四四 丹波国吉富新庄刑部郷実検田取帳(後欠) ○吉田文書

四五 九条兼実御教書 ○卷十

四六 葉室宗頼書状 ○卷十

四七 某書状追而書 ○卷十

四八 仁和寺宮令旨 ○卷十

四九 文覚書状案

五〇	太政官牒	○卷二十	71
五一	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	72
五二	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	72
五三	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	73
五四	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	73
五五	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	73
五六	銚請取狀	○国会図書館 所蔵長祿文書	74
五七	平政子書狀	○卷一	74
五八	高弁書狀	○卷二	75
五九	高弁書狀	○卷二	75
六〇	宗全書狀	○古典籍展観大入 札会目録平成六年	75
六一	某消息	○古典籍展観大入 会目録平成二十三年	76
六二	成弁書狀	○卷二	76
六三	藤原範朝袖判下文	○卷十	79
六四	藤原範朝家政所下文	○卷十	79
六五	丹波国吉富庄文書目録	○影写本十	80
六六	仁和寺宮令旨	○卷十	81
六七	長嚴書狀	○卷十	81
六八	北条義時書狀案	○卷十	82

六九	良勤書狀	○卷十	82
七〇	安倍氏女起請文案	○卷十	82
七一	後高倉上皇院宣	○卷十	83
七二	神護寺政所下文	○卷八	84
七三	宗全書狀	○卷三	84
七四	宗全書狀	○卷三	85
七五	宗全書狀	○卷三	85
七六	道忠書狀	○卷三	85
七七	宗全書狀	○卷三	86
七八	神護寺領諸庄文書注文(折紙)	○岡谷惣助氏所藏文書	86
七九	某充行狀	○鎌田武男氏所藏文書	87
八〇	宗全書狀	○卷三	88
八一	行慈書狀(本紙欠)	○卷三	88
八二	高弁書狀(裏紙欠)	○卷三	88
八三	行慈書狀(本紙欠)	○卷三	89
八四	行慈書狀(折紙)	○卷三	89
八五	行慈書狀(裏紙欠)	○卷三	89
八六	行慈書狀(本紙欠)	○卷三	90
八七	某家貞書狀	○卷十	90

八八	六波羅施行狀	○古文 書集九	91
八九	某家貞書狀	○卷十	91
九〇	覺觀書狀	○卷三	92
九一	北条時房書狀	○卷十	93
九二	高倉女御書狀(裏紙欠)	○卷十	93
九三	某消息	○卷十	94
九四	真遍書狀	○卷四	94
九五	行慈書狀	○卷三	95
九六	某書狀	○卷四	96
九七	行慈書狀	○卷四	96
九八	行慈書狀	○卷四	97
九九	宗全書狀(裏紙欠)	○卷四	98
一〇〇	宗全書狀	○里見忠三郎 氏旧藏文書	98
一〇一	宗全書狀	○卷四	98
一〇二	宗全書狀	○卷四	99
一〇三	宗全書狀	○卷四	99
一〇四	行慈書狀	○卷四	100
一〇五	行慈書狀追而書	○卷四	100
一〇六	宗全書狀追而書	○卷四	101

一〇七	行慈書狀	○卷五	101
一〇八	行慈書狀	○卷五	102
一〇九	性禪 _宗 金書狀(裏紙欠)	○卷五	102
一一〇	宗全書狀	○卷五	103
一一一	行慈書狀	○卷五	104
一一二	宗全書狀	○卷五	104
一一三	丹波国有頭新庄領家政所下文	○卷十	105
一一四	行慈書狀	○卷五	106
一一五	性円書狀	○卷五	106
一一六	行慈書狀	○卷六	107
一一七	宗全書狀	○卷六	108
一一八	行慈書狀	○卷六	109
一一九	行慈書狀	○卷六	110
一二〇	行慈書狀追而書	○卷六	111
一二一	宗全書狀	○卷六	111
一二二	行慈書狀	○卷六	113
一二三	行慈書狀(裏紙欠)	○卷六	113
一二四	宗全書狀	○卷六	114
一二五	行慈書狀	○卷七	114

一二六	行慈書狀	○卷七	115
一二七	行慈書狀	○卷七	120
一二八	行慈書狀（裏紙欠）	○卷七	121
一二九	行慈書狀追而書	○卷七	121
一三〇	行慈書狀	○卷七	122
一三一	行慈書狀	○卷七	122
一三二	後嵯峨上皇院宣	○林家旧藏 古筆手鑑	122
一三三	播磨国福井庄西保田数注進狀案	○高山寺所藏 不動法裏文書	123
一三四	行慈証門書狀	○卷七	125
一三五	性禪宗全書狀	○卷七	125
一三六	宗全書狀（裏紙欠）	○卷七	126
一三七	行慈書狀	○卷四	126
一三八	宗全性禪書狀	○卷五	127
一三九	性禪宗全書狀	○卷七	127
一四〇	宗全書狀（裏紙欠）	○卷七	127
一四一	宗全書狀	○香雪齋藏品展 觀図録所収文書	128
一四二	定円書狀	○卷八	128
一四三	行慈書狀	○瑞龍寺 所藏文書	130
一四四	証円行慈書狀	○卷八	131

一四五	舜西書狀	○卷八	131
一四六	某書狀	○卷八	132
一四七	行慈書狀(裏紙欠)	○卷八	132
一四八	神護寺納涼坊伝法会始行告文	○卷八	132
一四九	仁和寺宮令旨	○卷八	133
一五〇	神護寺供養日時勘文	○卷八	133
一五一	北白河院神護寺供養願文	○卷二十四	134
一五二	行慈書狀	○卷八	138
一五三	行慈書狀	○尊經閣 古文書纂	140
一五四	行慈充行狀	○卷八	141
一五五	某庄年貢米算用狀案(前欠)	○高山寺所藏 不動法裏文書	141
一五六	備中国足守庄檢注帳(後欠)	○高山寺所藏 不動法裏文書	143
一五七	神護寺宿老寺僧等置文案	○仁和 寺文書	144
一五八	関東下知狀	○卷十一	145
一五九	北白河院神護寺講堂供養願文	○卷二十二	146
一六〇	太政官牒	○卷二十	148
一六一	覚寛書狀	○卷十一	149
一六二	覚真 藤原長房 書狀	○卷十一	150
一六三	藤原信盛書狀	○卷十一	150

一六四	某書狀(裏紙欠)	○卷十一	151
一六五	中原章常書狀	○卷十一	151
一六六	關東下知狀	○卷十一	151
一六七	關東下知狀案	○卷十三	153
一六八	六波羅下知狀	○卷十一	153
一六九	隆弁奉書	○服部玄三 旧藏手鑑	156
一七〇	九条道家御教書	○卷十一	157
一七一	九条道家御教書	○卷十一	157
一七二	神護寺供僧補任狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	158
一七三	太政官牒	○卷二十	158
一七四	仁和寺宮令旨	○卷十一	159
一七五	仁和寺宮令旨案	○卷十一	159
一七六	關東御教書	○早稻田大学附属 図書館所藏文書	160
一七七	仁和寺宮令旨	○卷十一	160
一七八	丹波国吉富新庄内刑部郷檢注帳(後欠)	○国立歴史民俗 博物館所藏文書	161
一七九	尼念淨讓狀	○卷十一	162
一八〇	神護寺・高山寺僧等契狀案(前欠)	○高山 寺文書	162
一八一	西園寺実氏御教書	○卷十一	163
一八二	六波羅御教書	○卷十二	164

一八三	中原友景書狀	○卷十二	164
一八四	中原友景書狀	○卷十二	164
一八五	西園寺実氏御教書	○卷十二	165
一八六	中原友景書狀	○卷十二	165
一八七	後嵯峨上皇院宣	○卷十二	166
一八八	後嵯峨上皇院宣追而書	○卷十二	166
一八九	後嵯峨上皇院宣	○卷十二	166
一九〇	安倍資俊書狀	○卷十二	167
一九一	神護寺灌頂院御影供布施物等送狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	167
一九二	尼念淨讓狀	○卷十三	169
一九三	神護寺供僧補任狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	170
一九四	某申狀(前欠)	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	171
一九五	某預狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	171
一九六	某書狀	○卷十二	172
一九七	神護寺灌頂院御影供布施物等送狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	172
一九八	神護寺灌頂院御影供布施物等送狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	174
一九九	納涼坊長日尊勝陀羅尼結番	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	176
二〇〇	金剛頂發菩提心論所談交名覺書	○影写本十	179
二〇一	神護寺住侶請文案	○卷十一	181

二〇二	藥師護摩支度	○大覺寺所藏諸尊法紙背文書	181
二〇三	仁和寺宮令旨	○卷十二	183
二〇四	丹波国小野・細川両庄作手重申狀	○卷十二	183
二〇五	勝禪奉書	○宮内庁書陵部所藏青蓮院文書	185
二〇六	賢助重訴狀	○大覺寺所藏諸尊法紙背文書	185
二〇七	某季量書狀	○思文閣古書資料目錄一七五	185
二〇八	神護寺別当政所下文	○大東急記念文庫所藏集古文書	186
二〇九	神護寺政所下文	○思文閣古書資料目錄二〇二	187
二一〇	播磨国福井庄東保散用狀	○中野莊次氏所藏文書	187
二一一	播磨国福井庄東保年貢未進注文(後欠)	○水野忠幹旧藏文書	189
二一二	播磨国福井庄東保米算用狀(後欠)	○輯古帖四	191
二二三	山城国平岡村実検田目錄	○宮内庁書陵部所藏青蓮院文書	192
二二四	仁和寺宮令旨	○卷十二	193
二二五	仁和寺宮令旨	○卷十二	193
二二六	仁和寺宮令旨	○卷十二	193
二二七	龜山上皇院宣	○卷十二	194
二二八	仁和寺宮令旨	○卷十二	194
二二九	播磨国福井庄田地注進狀(前欠)	○影写本十一	194
二三〇	藤原親盛讓狀	○卷十三	219

一一一	尊弁書狀	○卷十三	220
一二二	仁和寺宮令旨	○思文閣古書資 料目錄一四○	220
一二三	播磨国福井庄檢田目録(前欠)	○水野忠幹 旧藏文書	221
一二四	播磨国福井庄作田目録注進狀(前欠)	○輯古帖六	223
一二五	左衛門尉某奉書案	○卷十三	223
一二六	後深草上皇院宣	○卷十三	224
一二七	西園寺実兼御教書	○卷十三	224
一二八	神護寺御使書下案	○水野忠幹 旧藏文書	225
一二九	寺家内檢使道明等連署充行狀案	○水野忠幹 旧藏文書	225
一三〇	播磨国福井庄年貢注進狀(前欠)	○水野忠幹 旧藏文書	226
一三一	播磨国福井庄名頭言上狀案	○水野忠幹 旧藏文書	227
一三二	播磨国福井庄内檢目録(後欠)	○輯古帖三	228
一三三	関東下知狀案	○卷十三	229
一三四	播磨国福井庄東保年貢未進米算用狀(後欠)	○輯古帖八	229
一三五	播磨国福井庄年貢注進狀(前欠)	○輯古帖八	230
一三六	播磨国福井庄東保名主笠宗真并僧朝円言上狀案	○水野忠幹 旧藏文書	231
一三七	伏見上皇院宣	○保阪潤治 氏旧藏文書	232
一三八	安藤蓮聖請文	○尊經閣 古文書纂	232
一三九	了俊書狀	○日下氏 所藏文書	233

二四〇	仁和寺宮令旨案	○古文書纂一	233
二四一	後二条天皇綸旨	○卷十三	234
二四二	某書狀	○影写本十	234
二四三	後宇多上皇施入狀		234
二四四	六波羅御教書	○尊經閣古文書纂	235
二四五	六波羅御教書	○卷十三	235
二四六	後宇多法皇諷誦文	○卷十三	235
二四七	後宇多法皇諷誦文	○卷十三	236
二四八	後宇多法皇灌頂曆名施入狀		236
二四九	神護寺別当御教書	○卷十三	236
二五〇	播磨国宿院村公文代注進狀案(後欠)	○卷十三	237
二五一	年預集会催促狀	○広島大学文学部所藏神護寺文書	237
二五二	播磨国福井庄宿院村地頭代澄心重陳狀	○卷十三	238
二五三	若狭国西津庄所当収納帳	○水野忠幹旧藏文書	241
二五四	神護寺別当禪助補任狀	○国会図書館所藏田券	242
二五五	紀伊国河上庄上村雜掌良兼請文	○宮内庁書陵部所藏青蓮院文書	242
二五六	紀伊国河上庄上村雜掌定憲請文	○思文閣古書資料目錄二〇二	243
二五七	神護寺別当禪助拳狀案	○宮内庁書陵部所藏青蓮院文書	243
二五八	神護寺別当禪助書狀案	○東京大学史料編纂所所藏文書	244

二五九	高倉経躬奉書	○林家旧蔵 古筆手鑑	244
二六〇	行忍年貢請文	○国会図書 館所蔵田券	244
二六一	禅隆奉書	○古文 書纂五	245
二六二	禅隆奉書	○尊経閣 古文書纂	245
二六三	禅隆書狀	○尊経閣 古文書纂	245
二六四	禅隆書狀(本紙欠)	○尊経閣 古文書纂	246
二六五	長禅書狀	○古文 書集七	246
二六六	禅隆奉書	○尊経閣 古文書纂	246
二六七	太政官牒	○卷二十	247
二六八	興禅書狀	○卷十三	249
二六九	興禅書狀	○卷十三	249
二七〇	某書狀追而書	○卷十三	250
二七一	後醍醐天皇綸旨	○卷十四	250
二七二	後醍醐天皇綸旨	○卷十四	251
二七三	後醍醐天皇綸旨案	○弘文荘古書販売 目録日本の古文書	251
二七四	仁和寺宮令旨	○卷十四	252
二七五	某書狀	○東京大学文学部 所蔵長福寺文書一	252
二七六	神護寺三綱大法師等解	○卷十四	253
二七七	後醍醐天皇綸旨	○卷十四	254

二七八	神護寺・高山寺契状案	○高山寺文書	254
二七九	記録所廻文案	○水野忠幹 旧藏文書	255
二八〇	若狭国西津庄壇供請取状	○岡谷惣助氏 所藏文書	256
二八一	若狭国西津庄壇供請取状	○岡谷惣助氏 所藏文書	256
二八二	大覚寺置文案	○卷二十三	256
二八三	記録所廻文	○水野忠幹 旧藏文書	260
二八四	某書状	○吉田黙氏 所藏文書	260
二八五	記録所廻文	○水野忠幹 旧藏文書	261
二八六	記録所廻文	○輯古帖八	261
二八七	某書状	○日下氏 所藏文書	262
二八八	快承書状并某勘返状	○卷十四	262
二八九	若狭国西津庄役請取状	○広島大学文学部 所藏文書	263
二九〇	禅助書状 裏紙欠)	○東京大学文学部 所藏長福寺文書四	263
二九一	禅隆書状	○卷十四	263
二九二	紀六恒定田地売券	○国会図書館 所藏長祿文書	264
二九三	若狭国西津庄預所代官職充行状案	○古文 書纂一	265
二九四	行秀奉書	○古文 書纂一	265
二九五	光厳天皇綸旨(宿紙)	○卷十四	265
二九六	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十四	266

二九七	仁和寺宮令旨	○卷十四	266
二九八	後醍醐天皇綸旨寫	○東山御文 庫所藏文書	267
二九九	神護寺金堂長日供養法結番交名	○卷十五	267
三〇〇	性然書狀并禪隆勘返狀	○卷十四	268
三〇一	仁和寺宮令旨	○卷十四	268
三〇二	某書狀追而書	○卷十四	268
三〇三	某書狀追而書(宿紙)	○卷十四	269
三〇四	某書狀	○卷十四	269
三〇五	紀久岑書狀(宿紙)	○国会図書館所 藏高山寺古文書	269
三〇六	某請文(裏紙欠)	○宮内庁書陵部 所藏青蓮院文書	270
三〇七	丹波国焼森郷羅漢供料覺書	○影写本十	270
三〇八	某裁許狀(後欠)	○東京大学文学部 所藏長福寺文書四	270
三〇九	某裁許狀 裏紙欠)	○東京大学文学部 所藏長福寺文書四	272
三一〇	某書狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	272
三一一	現住根本宿老等注文	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	273
三一二	某書狀(後欠)	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	274
三二三	某書狀(前欠)	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	274
三二四	某書狀	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	274
三二五	紀伊国杵田庄地頭尼敬仏訴狀案(折紙・後欠)	○大覺寺所藏諸 尊法紙背文書	274

三二六	某国上中嶋里等坪付注文(前後欠)	○影写本十	275
三二七	某書狀(裏紙欠)	○東京大学文学部 所蔵長福寺文書四	284
三二八	紀伊国河上庄預所方雑掌職請文	○卷十六	284
三二九	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十六	285
三三〇	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十六	286
三三一	後醍醐天皇綸旨	○卷十六	286
三三二	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十六	287
三三三	新田義貞書下	○思文閣古書資 料目錄二〇	287
三三四	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十六	287
三三五	後醍醐天皇綸旨	○卷十六	288
三三六	後醍醐天皇綸旨(宿紙)	○卷十六	288
三三七	足利直義御判御教書	○卷十六	288
三三八	光嚴上皇院宣(切紙)	○卷十六	289
三三九	足利尊氏御判御教書(小切紙)	○卷十六	289
三三〇	足利尊氏御判御教書	○卷十六	290
三三一	足利尊氏御判御教書	○卷十六	290
三三二	丹波国守護仁木頼章施行狀	○尊經閣 古文書纂	290
三三三	二階堂成藤卷数請取狀	○卷十六	291
三三四	足利尊氏寄進狀	○尊經閣 古文書纂	291

三三五	丹波国烧森嶋教園院領目録	○影写本十	291
三三六	丹波国烧森嶋彦三郎入道余流等領目録	○影写本十	292
三三七	室町幕府引付頭人奉書	○卷十六	293
三三八	恵鎮書狀	○来迎 寺文書	294
三三九	恵鎮書狀	○来迎 寺文書	294
三四〇	足利直義御判御教書	○卷十六	294
三四一	足利直義下知狀案		295
三四二	足利直義下知狀	○卷十六	296
三四三	大高重成書狀	○卷十七	297
三四四	足利直義願文写	○東山御文 庫所藏文書	297
三四五	神護寺結縁灌頂僧名書付(折紙)	○飛見丈繁 氏所藏文書	298
三四六	足利直義御判御教書	○卷十七	300
三四七	室町幕府引付頭人奉書	○卷十七	300
三四八	丹波国守護代小林国範請文	○岡谷惣助 氏所藏文書	300
三四九	足利直義下知狀	○尊經閣 古文書纂	301
三五〇	藤井恒貞田地壳渡狀	○広島大学文学部 所藏神護寺文書	301
三五一	足利直義御判御教書	○卷十七	302
三五二	足利直義御判御教書	○卷十七	302
三五三	足利直義御判御教書	○卷十七	303

三五四	慈尊院俊然寄進狀	○狩野亭吉氏 菟集文書四	303
三五五	大乘經印板奉納狀	○卷十七	303
三五六	足利尊氏御判御教書	○卷十七	304
三五七	神護寺・高山寺境界契狀	○高山 寺文書	304
三五八	足利義詮御判御教書	○卷十七	305
三五九	足利直義御判御教書	○卷十七	305
三六〇	後村上天皇綸旨(宿紙)	○卷十七	306
三六一	後村上天皇綸旨(宿紙)	○文覺 寺文書	306
三六二	赤松義則書狀	○集古 筆翰二	306
三六三	足利義詮御判御教書	○武家 手鑑	307
三六四	足利義詮御判御教書	○卷十七	307
三六五	足利直義御判御教書(小切紙)	○卷十七	308
三六六	後村上天皇綸旨(宿紙)	○大覺 寺文書	308
三六七	宮將軍令旨	○卷十七	309
三六八	宮將軍令旨写	○色々 証文	309
三六九	後村上天皇綸旨(宿紙)	○卷十七	309
三七〇	足利義詮御判御教書	○卷十七	310
三七一	足利義詮御判御教書(小切紙)	○卷十七	310
三七二	室町幕府御所奉行卷数請取狀	○山科家 古文書	310

三七三	高倉某書狀(小切紙)	○卷十七	311
三七四	後村上天皇綸旨(小切紙)	○卷十七	311
三七五	光嚴上皇院宣	○卷十七	311
三七六	某書狀	○卷十七	312
三七七	某書狀	○卷十七	312
三七八	足利義詮御判御教書	○卷十八	312
三七九	室町幕府引付頭人奉書	○思文閣古書資料目錄一二五	313
三八〇	成円讓狀	○岡谷惣助氏所藏文書	313
三八一	足利義詮御判御教書	○卷十八	314
三八二	室町幕府奉行人卷数請取狀(小切紙)	○卷十八	314
三八三	足利義詮御判御教書(小切紙)	○卷十八	314
三八四	足利尊氏御判御教書	○卷十八	314
三八五	室町幕府奉行人卷数請取狀	○卷十八	315
三八六	室町幕府奉行人卷数請取狀	○卷十八	315
三八七	某書狀	○東京大学文学部所藏長福寺文書四・七	315
三八八	室町幕府引付頭人奉書	○古文書集一	316
三八九	足利義詮御判御教書	○卷十八	316
三九〇	後村上天皇綸旨(小切紙)	○卷十八	316
三九一	後光嚴天皇綸旨(宿紙)	○卷十八	317

三九二	後村上天皇綸旨(小切紙)	○卷十八	317
三九三	後村上天皇綸旨(小切紙)	○卷十八	317
三九四	足利尊氏御判御教書	○卷十八	318
三九五	室町幕府奉行人卷數請取狀(小切紙)	○卷十八	318
三九六	与田大和守卷數請取狀(小切紙)	○卷十八	318
三九七	後村上天皇綸旨(小切紙)	○卷十八	319
三九八	山名時氏書下	○卷十八	319
三九九	後光嚴天皇綸旨(宿紙)	○卷十八	319
四〇〇	某書狀	○卷十九	320
四〇一	細川清氏書狀(裏紙欠)	○卷十九	320
四〇二	小林重長書狀	○卷十九	320
四〇三	細川頼之書狀	○卷十九	321
四〇四	細川頼之書狀	○某氏旧藏文書	321
四〇五	赤橋登子書狀	○卷十九	321
四〇六	某奉書追而書	○卷十九	321
四〇七	楠木正儀遵行狀	○尊經閣古文書纂	322
四〇八	室町幕府引付頭人奉書	○尊經閣古文書纂	322
四〇九	足利義詮御判御教書	○尊經閣古文書纂	322
四一〇	丹波国守護仁木義尹遵行狀	○山科家古文書	323

四二一	丹波国守護仁木義尹請文	○卷十九	323
四二二	桃井直常書狀(小切紙)	○卷十八	324
四二三	常仁奉書	○尊經閣古文書纂	324
四二四	武家申詞并後光嚴天皇勅答写	○東山御文庫所藏文書	324
四二五	室町幕府引付頭人奉書	○尊經閣古文書纂	325
四二六	丹波国吉富庄鳥羽村永和二年得分米算用狀(後欠)	○源喜堂古文書目錄二	325
四二七	神護寺灌頂小阿闍梨登用次第	○水本直箭氏旧藏文書	326
四二八	播磨国福井庄上村一方地頭領家下地中分狀	○岡谷惣助氏所藏文書	331
四二九	播磨国福井庄東保上村年貢注進狀(後欠)	○影写本十	335
四二〇	丹波国守護山名氏清遵行狀	○研優社平成廿六年秋期古書目錄	336
四二一	丹波国小守護代某宗心打渡狀	○尊經閣古文書纂	336
四二二	神護寺公文所用途借狀案(前欠)	○水野忠幹旧藏文書	336
四二三	神護寺公文所用途借狀案	○輯古帖三	339
四二四	神護寺公文所用途借狀案	○輯古帖三	339
四二五	丹波国守護山名氏清遵行狀	○池上院文書	340
四二六	足利義滿寄進狀	○卷十九	340
四二七	弁海書狀	○国会図書館所藏田券	340
四二八	足利義滿御判御教書	○卷十九	341
四二九	室町幕府奉行人中沢氏綱書狀	○東京大学史料編纂所所藏文書	341

四三〇	丹波国小守護代小笠原正元請取状	○思文閣古書資料目錄二〇一別	342
四三一	足利義滿御判御教書	○卷十九	342
四三二	某貞盛打渡状	○尊經閣古文書纂	342
四三三	性海・窮慶連署仏具寄進状	○宮内庁書陵部所藏青蓮院文書	343
四三四	丹波国上繩野村算用状	○碓井小三郎氏所藏文書	343
四三五	丹波国八代村散用状(後欠)	○中野莊次氏所藏文書	349
四三六	某庄代官衛門尉請文(前欠)	○広島大学文学部所藏神護寺文書	350
四三七	丹波国吉富庄年貢算用状	○東京大学史料編纂所所藏文書	350
四三八	丹波国吉富庄某郷算用状(前欠)	○東京大学史料編纂所所藏文書	353
四三九	丹波国上繩野村年貢算用状	○碓井小三郎氏所藏文書	364
四四〇	丹波国八代村現未進注進状	○碓井小三郎氏所藏文書	369
四四一	丹波国八代村算用状	○東京大学史料編纂所所藏文書	372
四四二	播磨国福井庄西保年貢未進注進状案	○水野忠幹旧藏文書	377
四四三	丹波国八代村算用状	○東京大学史料編纂所所藏文書	377
四四四	丹波国熊田村算用状	○東京大学史料編纂所所藏文書	382
四四五	足利義持下知状	○卷十九	387
四四六	丹波国志万郷寺家一色方年貢算用状	○碓井小三郎氏所藏文書	388
四四七	丹波国吉富庄某郷算用状(前欠)	○東京大学史料編纂所所藏文書	391
四四八	丹波国八代村年貢算用状	○碓井小三郎氏所藏文書	394

四四九	足利義持下知狀	○卷十九	398
四五〇	丹波国鳥羽村預所方算用狀(後欠)	○東京大学史料 編纂所所藏文書	399
四五一	丹波国守護細川満元遵行狀	○卷十九	400
四五二	丹波国守護代細川頼益遵行狀	○卷十九	401
四五三	丹波国守護代香西常建奉書(折紙)	○卷十九	401
四五四	神護寺灌頂布施料送狀	○飛見丈繁 氏所藏文書	401
四五五	印成・良澄請文	○水野忠幹 旧藏文書	402
四五六	室町幕府管領奉書案	○影写本十	402
四五七	室町幕府神宮方頭人加判奉書	○双柏文 庫文書	403
四五八	足利義教御判御教書	○卷十九	403
四五九	良盛書狀	○卷十九	404
四六〇	某料足請取狀案	○卷十九	404
四六一	是安兼俊書狀	○卷十九	405
四六二	祐潤置文(前欠)	○東京大学文学部所 藏長福寺文書六・七	405
四六三	浦上千夜又丸代玄勝請文	○広島大学文学部 所藏神護寺文書	407
四六四	結城満藤奉書	○思文閣古書資 料目錄一四〇	407
四六五	足利義政御判御教書	○卷十九	408
四六六	丹波国吉富新庄預所方代官請文	○水野忠幹 旧藏文書	408
四六七	室町幕府奉行人連署奉書(折紙)	○岡谷惣助 氏所藏文書	409

四六八	室町幕府奉行人連署奉書(折紙)	○古文 書集二	409
四六九	丹波国守護細川勝元奉行人奉書(折紙)	○尊經閣 古文書纂	410
四七〇	丹波国守護代内藤元貞打渡狀(折紙)	○尊經閣 古文書纂	410
四七一	丹波国守護細川政元奉行人奉書(折紙)	○尊經閣 古文書纂	410
四七二	丹波国守護細川政元奉行人奉書(折紙)	○尊經閣 古文書纂	411
四七三	宇津常悅山林売券	○大東急記念文 庫所藏集古文書	411
四七四	丹波国守護細川澄元奉行人奉書(折紙)	○山科家 古文書	412
四七五	丹波国守護細川澄元奉行人奉書(折紙)	○田中慶太郎 氏所藏文書	412
四七六	某政家奉書(折紙)	○青紙文庫 所藏文書	413
四七七	慶真勸進狀		413
四七八	細川晴国書狀	○山科家 古文書	415
四七九	斎藤国富書下(折紙)	○尊經閣 古文書纂	415
四八〇	松田守興書下(折紙)	○田中慶太郎 氏所藏文書	415
四八一	三好長慶書狀(折紙)	○万葉莊文 庫所藏文書	416
四八二	室町幕府奉行人連署禁制	○長野県立歴 史館所藏文書	416
四八三	正親町天皇綸旨(宿紙)	○文覺 寺文書	417
四八四	正親町天皇綸旨案	○晴豐 公符案	417
四八五	羽柴秀吉朱印狀(折紙)		418
四八六	後陽成天皇綸旨(宿紙)	○文覺 寺文書	418

四八七	神護寺衆徒起請文	○成實堂古文書	419
四八八	豊臣秀吉朱印狀(折紙)		420
四八九	前田玄以書狀(折紙)		421
四九〇	晋海言上狀写	○神護国祚真言寺記録拾遺所収	421
四九一	徳川家康寄附狀		422
四九二	晋海他七名寄進狀写	○神護国祚真言寺記録拾遺所収	422
四九三	秀教請文	○影写本十	423
四九四	晋海充文案	○影写本十	424
四九五	真覺等連署起請文并養善等連署起請文	○影写本十	425
四九六	徳川家康朱印狀		427

記 録 篇

一	神護寺略記		431
二	神護寺最略記	○神護国祚真言寺記録拾遺所収	431
三	神護寺交衆任日次第	○奈良国立博物館所蔵	463
四	文治二年伝法灌頂記	○影写本十一	512
五	高雄曼荼羅修覆記	○大覚寺所蔵	524
六	神護寺規模殊勝之条々	○卷二十一	525
七	応永十六年神護寺結縁灌頂記		541

下	下	下	下	下	下	中	上	下	下	上	上	上	上	上	上	上	中
一々同	一々同	一々同	一々同	一々同	一々荒井内	一々垣内	上三百歩 下六十歩 一々同	一々同山際	一々同	一々同	一々同	一々垣内	一々同	一々同	一々同	一々末久垣	一々同
乍二反半	乍一反百冊歩大	乍一反小	乍百十歩大冊歩	乍一反大小	乍一反六十歩	乍二反小三百歩又不小	乍一反	乍四反半	乍一反	乍四反大	乍一反大冊歩	乍三反三百歩大	乍二反六十歩半	乍一反六十歩六十歩	乍五反半一一反半	乍二反大半	乍一反半

御正作	宗次	末包	延久	国貞	近恒	末久	国貞	国貞	極樂寺敷地	国貞	近恒	国貞	末久	国貞	末久	末久	氏永
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	-------	----	----	----	----	----	----	----	----

[illegible]

文治元年九月 日

二九 隆憲奉書（裏紙欠） ○卷九

御入壇事、四月下旬・「五月上旬之間、可候之由、」内々其沙汰候也、只今「一切不可及御披露、一定」日次、自此可注遣之由、「所候也、恐々謹言、

（文治二年九月）
二月十四日 隆憲

三〇 後鳥羽天皇宣旨

○早稻田大学附属
図書館所蔵文書

神護寺と石清水八幡宮との
相論

応令不知実名高雄寺住僧字浄覚房并申「子細、石清水八幡宮寺所司等訴申、且永停止自由」濫妨、且任所犯実、処罪科浄覚房并下手人等事、

副下濫行人交名并被害刃傷神人等交名各老通、

紀伊野上庄

同神野真国庄

右、得彼宮寺所司等去月廿八日解状僞、謹檢案内、当宮寺「御領紀伊国野上庄者、往古根本神領也、延久年中勅免以降、」一百余歳之間、敢以無脱漏矣、爰同国神野真国庄、為高雄「文覚上人沙汰之剋、弟子僧浄学房恣振威勢、忽巧新儀、」令押領野上庄内佐佐小河村之間、或「殺害刃傷神人、或」焼払数字民宅、狼戾之甚、何事如之哉、望請天恩、且永「令停止佐佐小河新儀・濫妨、且又件浄覚房并下手輩、」任所犯実、被処罪科者、将仰神威嚴重、弥祈宝祚「延長者、右少弁藤原朝臣親経伝宣、権中納言藤原」朝臣実家宣、奉 勅、宜令彼浄覚房并申件子細者、

文治二年四月廿五日左大史小槻宿禰（（広房））奉

三一 紀伊国神野真国庄問注文書等目錄

○和歌山県立博物館所藏文書

〔端裏書〕
「神野真国問住

文書等目錄」

宣旨正文三通

宣旨請文案二通

神野真国庁御下文案一通

院宣陳狀案一通

問注日八幡方ヨリ取出宣旨案一通

在庁注文案一通

史長者上人御房御文御返事一通副弁返事一通、

已上十一通

文治二年十月廿三日

（花押）

〔異筆〕
「廿四日請取了、（草名）」

三二 後白河法皇院宣 ○卷十

〔七卜端裏書〕
「文治四年七月廿四日」

神護寺領八ヶ所

摂津国寺田

若狭国西津庄

丹波国吉富庄

播磨国福井庄

備中国葦守庄

紀伊国笠田庄

川上庄

神野真国庄

役夫工米免除

右八ヶ所、役夫工被免除」了者、

院宣如此、悉之以状、

文治四年七月廿四日 右中弁（藤原基親）（花押）

（文覚）
高尾聖人御房

三三 後白河法皇院宣 ○卷十

賀茂別雷社司等解「状遣之、任両度 宣旨、」可停止其妨之由、可被下知也、」共不可有新議欺者、

依「院宣、執達如件、

（文治五年九）
七月十七日 宮内大輔（藤原家実）（花押）

（文覚）
高尾聖人房

三四 後白河法皇神護寺御幸記（後欠） ○卷二

〔端裏書〕

〔後白川法皇当寺御幸記 上覚上人御自筆〕

〔端裏書〕

〔高雄御幸事〕

正月十六日、当寺御幸、

二月也、

御共人々、別可注、

御儲

供御御寺沙汰、

殿上饗智月房、吉富新庄并川上庄預所役、

北面饗覚文房、福井庄預所役、

者力饗乘智房、吉富本庄預所役、

雜人料破子七百合、

〔足守庄・西津庄所課〕五百合、
并御寺沙汰二百合、

文覚御堂の庭
を掃く

御幸午時、直御堂參詣、上人文覚取籌掃御堂之庭、法皇含咲御覽、連入礼堂、〔着御座、暫時相

具上人并兵衛介某丁、

〔陣、以下同〕
入御堂内陳、御帳力キアケテ、

令拝本仏御、〔内陳役人、性円・道海・定

信・永真・行俊・定喜・〕定円也、拝礼之後、法皇自火打テ、灯炉〔令燃付御、兵衛介某申賜火

燃付、以此火、為〔常灯、為伝未來際、付不断香、并納涼殿〕灯炉燃付、当日本堂長日供養法、

所〔被始行也、諸堂參拝之後、於御所〕供御ナル、申時、還御、次日女房參詣、

三五 播磨国司庁宣

○思文閣古書資料目錄
二四九・二五〇合併

庁宣 留守所

可早以福田・櫛谷兩保為文覺聖人所知事

右、件保等、為彼聖人所知、免除所當「可停止雜事之狀、所宣如件、以宣、

建久元年五月十六日

右近衛權中將兼大介藤原朝臣（実明）（花押）

三六 太政官牒 ○卷二十

（七卜端裏書）
「阿闍梨」官符 建久元年」

太政官牒神護寺

阿闍梨五口

応置阿闍梨伍口事

右、太政官今日下治部省符僞、「正三位行權中納言藤原朝臣」兼光宣、奉 勅、件阿闍梨伍口、「宜置彼寺者、省宜承知、依宣行之者、」寺宜承知、牒到准狀、故牒、

建久元年六月廿六日 修理左官城判官正五位下行左大史小槻（広房）宿禰（花押）牒

從四位上行權右中弁平「朝臣」（自署棟範）

○本文書、太政官印三顆を捺す。

三七 神護寺解 ○卷二十

（七卜端裏書）
「始被置阿闍梨之放解文官案」

大童子二人一人如木、一人布單袴。力者十余輩衣力者六人、格勤四五人。乘輿、先向休所、於大床下居輿、着草鞋昇

緣上、扈以下皆從。扈從即昇北小緣、開西面妻戸明障子、予即入內暫相待列時分之處、既及夜

陰之間、令取松明、此時綱所以鑑取啓第二度案内、頃之色衆起集会所、赴廷道、此時專當

撤幔門、又鑑取采啓引案内、予出休所、於西面大床落板上駕腰輿、駕輿丁八人昇棒、腰輿

經灌頂院北、至廷道之際、力者・大童子等取松明先行、十弟子二人各持法具、隨輿左右、

上首融覺右、下薦能落左、次扈從、次從僧、在輿前左右對、雖可取松明、今度依一人召具、略其義也、次法師原各取松明、相隨隨至廷道處、向

南立腰輿、列儀式整經、暫不居輿也、列次第、先引頭二人、次法螺吹二人、寄机際取、貝先進行、次讚頭二人、直取鉢、從

机左右進廷道上、左頭東、右頭西、專當次饒持二人取饒相從于役人、次饒役以下讚衆下薦前進

行、次持金剛衆十人、各經左右廷道、次乞戒師、經中次持幡童、襲裝束、如常寄机際取玉幡、

扈從裏頭取伝之次專當撤左右机、次大阿闍梨下立中廷道、扈從以下蹲踞、從僧獻草鞋、獻草鞋事、十弟子役也、今

度二人間持物多々、仍今從僧獻之、是又一說也執綱・執蓋等、指蓋張綱、予降立廷道之後、從僧以下僮僕皆引退、十

弟子隨左右、次小阿闍梨立加中廷道、從僧持法具、相從其道、經廷道外東、貝吹・饒持・十弟子・執綱等皆經

廷道外、蓋役脫鼻荒、隨大阿闍梨經中廷道、或說蓋役經廷道外、自傍指蓋云々、能可決之、讚頭於堂巽角兩頭相向自發音、

余也、衆讚二返了、突鉢・貝吹發吠声、漸々引烈、至階下威儀師二人立留左右、先右頭・鉢

挾腋登大床、此間、左頭於階下突鉢次左頭又挾鉢昇、此又右頭於大床向西、問突鉢此時不合鉢音也、左頭登了、左右相向、合鉢声、

其後次第步行、次々讚衆各守次着、下薦前進昇於大床東端群立、但頭二人立面相向、次持金剛衆進昇

於大床東腋造輪、次乞戒師昇立正面腋、次予昇大床立中央、於散華机者、戒場狹故、臨烈剋限、取却之、置上卿座上、無言行道了、

如元直次十弟子昇、於廷道際脫鼻、荒、力者取之、分左右、經中央腋置法具、其次第如常、右机香品箱、左机居宮也、次帰下

取玉幡立前机左右、南角立之、兼有其用意、次持幡童經本路退帰、次予經「高座東、至乾角有高座加持作

法、若為登儀者、大阿闍梨立留階下、先十弟子進登、置法具、立玉幡了、大阿闍梨可登也、作法了、於高座後、先向內「陣一拜、次立廻于右方、

向高座又一拜、共小、揖也、「即登高座、先指入檜扇於香呂箱、此間小阿闍梨・從僧參上、置法具

退出、次小阿闍梨着座、次乞「戒師寄立礼盤前、次納衆無言行道、下脇前、三逆」了各着座、次讚

衆止鉞音着座、上首、次第、次貝吹「止貝音退帰、此間專當卷置庭道、次予置五古、取香呂、綱僅所摧惣礼、衆

僧惣礼三度、小阿闍梨・乞師等雖取香呂、不作礼也、次「大阿闍梨置香呂、入箱、作法有序、振鈴畢乞戒」師金二打、

唱礼併頌、三拜了金一打、唄師唱「片句、此間承仕二人參上、其路經威儀師着座前也、賦花箱、散華師起座、

於東大床取座具香呂、依略從僧承仕設之、即「於正面東腋高座東也、展座具、三礼此間唄師唱未片句、以下作法」如常對

揚了乞戒師打磬、表白以下如例、次大「阿闍梨表白・說戒等如次第、乞戒師隨喜、乞誓了

打「磬、下礼盤着平座、次大阿闍梨下高座着平座、十「弟子取法具渡置平座、十弟子二人、同如

納香呂箱、右宮置之、若有四人者、二人、次小阿闍梨・從僧參上、撤法具□「下、先例引大阿闍梨已

取如意戒鉢箱各持之、暫可復本座也、綱所申之云々、又誦經導師略之、先例「存略不定也、

下布施、大阿闍梨外、皆紙裏也、而今「度有沙汰略之、略之条、可然之由、又誦經導師略之、先例「存略不定也、

御願時有御誦經、使殿上人勤之、而職事并官等近年無登山、乍居申沙汰之許也、仍無御誦經、使勤仕之人、然者略之条宜歟、事了、先引頭威儀師下階、次鐃「持具鉞、二人

下、次讚頭、還列頭、先進、次々色衆皆下、乞戒師如前立中央、次十弟子取玉幡授持幡童、更帰登「取持

法具、下立階下左右、力者獻鼻荒、色衆已下左右、次小「阿闍梨下、先寄西庭道、大阿闍梨加列後、立中庭道也、次予下立中庭

道、持「幡・執蓋・執綱等皆如上堂、讚頭発音返讚略助音、是先例也、即調鉞音、法螺吹吠声、每

事如進儀、至「于庭道北端、色衆皆立退于東方一処群立、但讚頭二人立猶合鉞音、駕輿丁指寄腰輿、此時止鉞音也、予聊步」廻自左方駕輿、僮僕取松明如前、至休所前於「落縁上降腰輿、即移駕手輿、帰弊坊了、

是「亥終剋也、自上堂初至還列期、頸卷之僧徒見」聞之縉素數百人充滿堂上堂下、塞路猥雜、^當「專堂雖弘之、敢以不承引、其義頗狼藉也、

夜所上人請定案以承仕當日取奉、

初夜所作

』

片壇

權少僧都 尊惠

尊号

權少僧都 成潤 權律師 尊秀

祐潤 慈經

含香

權律師 宥雅

灑水

大法師 常政

記錄

大法師 弘成 遵經

教授

大法師 良潤 惠潤

定潤 良紹

右、廻請如件、

応永十六年二月 日

大阿闍梨權僧正法印大和尚位実順

三昧耶戒了、奉行祐潤律師命当院預、令整理『内道場、両壇數万茶羅・四面仏具・輪羯磨・鈴杵』置五古・四色染仏供等如常、八祖前各仏供四坏、白飯二坏、染仏供二坏、灯明二坏・闕伽一前備之、当

于母屋北中央南北立床一脚東西、數疊、端、高麗後立十二天屏風上帖、為大阿闍梨座、当母屋南中央東

柱南、立床一脚東西、數同疊為小阿闍梨座、夜時小阿闍梨別座、觀音院灌頂例云々、当同西柱立床一脚東西、數紫端疊為

記錄二人座、至所役期乾角構小壇、如常、以南床為僧綱座、西上以北床為誦衆座、東上南中

央妻戸際立屏風一帖為受者引入路、屏風際、置香象委細如指図矣、小カ文以北床為誦衆座、東上南中

今度即任旧記可參入之旨、雖定之、三奉行以承仕啓色衆、皆參之由、予即着裳束、令懷中表白、旧記以初夜鐘昧耶義、遲之間、夜時分以令遲引也、

持五古持裏獨、是皆先例也、乘手輿、力者・大童子等如木大童子略之、取松明相五之前後十弟子持香呂筥、

草座々具、但路次間、令略之、隨左右、力者持之、至灌頂院北土庇降輿、扈從於此所令參向、次共奉、路予自後戸參堂、

經屏風東先着床、十弟子至礼盤迎置法具、居簀左腋机、香呂筥磬台本、退出扈從即承仕兩壇四面火舍

置火了、予起座至礼盤下置檀扇、取香呂、先左立巡礼東曼荼羅、一度以向当界三礼了、

着礼盤先捻名香、次置念珠・独古・塗香以下、作法如例、此間片壇師、着礼盤、次金二打表白新草・神

分・五悔等如常、前供養讚承潤唱之、三刁金後衆僧誦仏眼咒、微音、振鈴以後各念誦大日

真言、散念誦時分、先片壇阿闍梨下礼盤、着本座、次予下礼盤、取檀扇、当界聊小揖、着床十弟子參

取法具、移置座[、]左右、次[、]奉行命承仕、令調受者引入之儀、先「撤当界礼盤・磬台・腋机等、運置東壇南、次取」大壇五瓶拔花渡小壇机、壇上四角各置切灯台、供灯明取却、本灯明置便宜所、^{但以一灯置、記錄役人前、}大壇四角各居切床一脚、次香象置火、事具後先含「香・灑水二人自後戸廻外陣着其座、次記錄・尊」号等各起座、着自分床、次小阿闍梨起座、^{或小阿闍梨最初立座、着椅子、兩說宜任人意、}經東壇後廻北着小壇倚子、^{懸腰、不安座、}次一生不犯人引入之、^{教授四人内上首役、之皆不着草鞋也、}一々「神名記錄上首唱之、小阿闍梨密結誦印明、得大日之時教」授催讚、^{四智讚一反右頭誦之、色衆皆可助音也、}投花了取覆面礼「曼荼羅、^{三拜五鉢投地、}次巡廻大壇、^{錄後、}先礼西四祖、」次至小壇受印明、了礼小阿闍梨、三礼、次自後「戸廻東礼東四祖、了經本路出外陣、後々皆」如此、四輩引入之間、記錄役一々注之、^{上首注神名并比丘・比丘尼、下屬注優婆塞・優婆夷、}此間予暫出于休所休息、結縁「衆群集及數百人之間、密々帰弊坊、聊」以寢臥、次日^{日十八}未半剋、受者尽了、予即「至休所、着裝束參堂、先着床、此間役人等皆」帰着本座、礼盤以下如本直置之、予即着「礼盤、^{乍持檜扇、小揖着之、}次片壇同着、先打一字金、諸僧」誦其咒、次置念珠・独古、行後供養、仏布施」之次、供闕伽了、金一打、読卷數、^{不取念珠、}卷數「案文兼書之、置脇机、又付楮立当界左、凡」御願之儀、必於当座中大阿闍梨并色衆、「僧綱位署、^{凡僧并散位僧綱不載之、}卷數役凡僧最末勤之、」案文兼用意之、於正文者、当座書之、結縁衆「了役人持之、^{承仕持硯隨之、}參大阿闍梨前申署、^{役人「取筆進之、阿闍梨即書実名、}次々色衆・承仕上首次第取」署也、然当山之儀、近例不爾、兼令用意之云々、「是非本義、依為恒例法会、存略儀歟、然間色」衆内両三人中間令退出、後供養之時分重「不參入、是自由之至歟、更不足為例也、

神護寺

結縁灌頂所

奉修

両界供養法各一箇座

奉念

仏眼真言二千一百遍

大日真言二万一千遍

阿闍真言二十一遍

宝生真言二十一遍

無量寿真言二十一遍

不空成就真言二十一遍

金剛薩埵真言二十一遍

降三世真言百遍

一字金輪真言二千一百遍

右、奉為

金輪聖王宝祚延長、為恒例不久御願、修結縁灌頂「大法、廿一口金剛仏一等、殊致精誠奉修如件、仍勒遍数謹解、

応永十六年二月十七日 行事伝灯大法師位良弘

権律師法橋上人位、

『○以下の五行朱筆』

自余尊数依法流不定、卷「数役人兼大阿闍梨方可」尋知之、又公方進上御「卷数、僧綱位署悉注之、」為令知其、具以朱大都「注之、○本割書は朱筆である。